第１回　本町通り商店街エリア　ウォーカブル勉強会

次第

日時：令和６年４月２２日（月）
１９：００～２０：３０
場所：古民家あいせき（Web 併用）

１．挨拶

美濃羽　都市計画課長

２．勉強会の趣旨説明

３．最新の都市・道路行政の取組

国土交通省　道路局　企画課　企画専門官
髙濱　康亘　氏

４．市街地中心部の取組状況

（１）空き店舗を活用したマルシェの取組

（２）滞留空間（本町ネクスト）の取組

５．今後の予定

第1回本町通り商店街エリア
ウォーカブル勉強会

ウォーカブル勉強会について

令和6年4月22日

関市都市計画課

目次

（１）ウォーカブルとは

（２）勉強会の目的・内容

（３）今後の予定

1．ウォーカブルとは

○　街路空間を車中心から「人」中心の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に活用し、人々が集い・憩い・多様な活動を繰り広げられる場へ
○　「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出による「魅力的なまちづくり」

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成のイメージ例

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進
※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能

都市構造の改変等

○**都市構造の改変**（通過交通をまちなか外へ誘導するための外周街路整備等）
○都市機能や居住機能の**戦略的誘導**と**地域公共交通ネットワーク**の形成
○**拠点と周辺エリアの有機的連携**
○**データ基盤の整備**（人流・交通流、都市活動等に係るデータプラットフォームの構築等）等

居心地が良く歩きたくなるまちなか

Walkable　歩きたくなる
居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

Eye level　まちに開かれた１階
歩行者目線の１階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

Diversity　多様な人々の多様な用途、使い方
多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

Open　開かれた空間が心地良い
歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

1階をガラス張りの店舗にリノベーションし、アクティビティを可視化
民間敷地の一部を広場化（宮崎県日南市）

２つの開発の調整により一体整備された神社と森（東京都中央区）

駅前のトランジットモール化と広場創出（兵庫県姫路市）

道路を占用した夜間オープンカフェ（福岡県北九州市）

公園を芝生や民間カフェ設置で再生（東京都豊島区）

※国交省都市局「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」中間とりまとめ より抜粋

２．勉強会の目的・内容

年度	市街地の整備	地域での取り組み
令和3年度	■遊歩道の整備 ・ 公共施設や地域資源を結ぶネットワークを強化して回遊性を高め、まちの賑わいと魅力を創出	
令和4年度		■本町6・7丁目エリア価値向上に向けた勉強会 ・ 遊休不動産の活用検討、住民が描く将来像
令和5年度		
令和6年度		■ウォーカブル勉強会
令和7年度		
令和8年度以降	■居心地がよく歩きたくなる空間整備（予定）	

2．勉強会の目的・内容

本町6・7丁目エリア価値向上に向けた勉強会（令和4年度）

■目的

- 本町通り界隈が魅力的なエリアとなるよう、本町7丁目広場の利活用を検討し、更なるにぎわいの創出とエリアの価値向上に向けた意見交換を実施

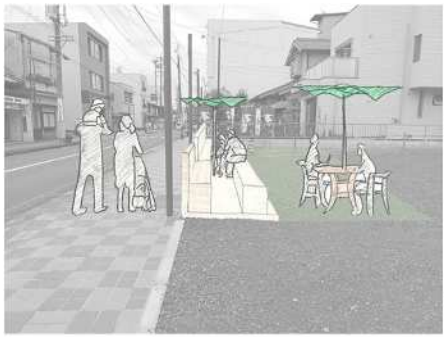
■対象者

- 本町6丁目、7丁目の地域住民
- まちづくりに興味のある方

■取組内容

- 令和4年度中に計4回実施
- 本町7丁目広場の活用、住民が思い描くエリアイメージ、まちなかに求める機能、公共空間の活用などについて意見交換
- 国の施策や先進事例の共有

実施状況



本町7丁目広場の滞留空間

本町通り商店街エリアウォーカブル勉強会 （令和6年度～）

■目的

- 本町通り商店街エリアの公共空間や低未利用地の利活用、交流空間の創出を図り、誰もが居心地良く、歩きたくなる、にぎわいのあるまちづくりを進める。
- 地域住民の生活の質を高め、その地域に住みたい人、住んで良かったと思う人、外部からこの地域に関わってみたいと思う人を増やす。

■対象者

- 地域住民、観光・商工関係者
- 教育機関
- 行政（都市計画、土木、建設総務、商工、観光、企画広報の各課による推進体制）

■内容

- 本勉強会は、ウォーカブルに係る先進的な取組について情報収集、知見の共有を行うとともに、地域住民と協働でエリアの将来ビジョンを策定し、実現に向けた社会実験の実施、データ収集、分析等を行う。

（参考）広島県竹原市の事例

○　道路・公園などの公共空間の利活用、低未利用地の活用、人々の交流、人々が集まるためのきっかけづくりなどの取組を進め、エリア全体の価値向上を図るビジョンの策定
○　市域全体の活力を牽引すべき「まちの中心部」を対象エリアと位置付け
○　地域住民の生活の質を高め、地域に住みたい人、住んでよかったと思う人を増やす

竹原駅前エリアウォーカブルビジョン（令和3年2月策定）

・将来像を市民、事業者、行政等で共有
・関係者の連携による相乗効果の期待
・社会実験などの短期PJ
　ハード整備の長期PJ
　概ね10年後の将来像

6．目指すべき将来像と実現に向けた取組

暮らし誇らし、竹原市。

コンセプト

竹原駅前 Smile Park はじめました！

■コンセプトの設定
Park(ing)Day の取り組みでは、歩道や停車帯に子どもが遊べる滞留空間を配置すると多くの人が集まり、訪れた**大人や子ども達に笑顔が溢れ**、また、**地域の高齢者にも笑顔**が溢れました。
このエリアで日常的に Park(ing)Day の風景を見ることができれば、多くの人々の心が豊かになり、幸せに過ごすことができると感じたはずです。
Park(ing)Day での駅前エリアは、まさに『公園』のように楽しい空間であり、目指すべき将来の姿であると感じたため、**『竹原駅前 Smile Park はじめました！』**をコンセプトに設定しました。
また、**COVID-19** を踏まえたオープンスペースの活用という観点からも、公園をイメージしたまちづくりは重要であると考えました。

まちづくりのコンセプトを実現するために取り組んでいく5つの基本方針

基本方針

基本方針１
『人々が歩きやすいまち』
沿道店舗の賑わいがまちへ滲みだす景観や公共空間に多様なアクティビティを設えることにより、まちを行き交う人達がワクワクしながら歩くまちづくりを進めます。

基本方針２
『人々が集うまち』
駅前エリアを訪れた人々が、各世代や性別などのニーズに応じて楽しむことができる新たな体験や、体験を通じた多世代の交流を生むまちづくりを進めます。

基本方針３
『人々が働くまち』
駅前という立地条件の良さを生かし、新たなビジネスが生まれるエリアとして、起業家と空き家・空き店舗とのマッチングや創業者のビジネス活動を支援する拠点など、人々が働きやすい環境のあるまちづくりを進めます。

基本方針４
『人々にやさしいまち』
駅前エリアを訪れた人々が、その目的に応じて移動しやすい交通環境や、エリアの魅力を分かりやすく、丁寧に情報発信するなど、おもてなし感のあるまちづくりを進めます。

基本方針５
『持続的な活動ができるまち』
ビジョンを実現するため、パブリックマインドを有した人材が中心となり、地域住民や行政、関係団体などが連携し、公民連携で持続可能なまちづくりを進めます。

まちづくりの5つの基本方針に基づき実践すべき10の戦略

戦略

戦略　１．歩きたくなる魅力的な景観
戦略　２．滞在したくなる空間の演出
戦略　３．訪れた人々が楽しめる体験
戦略　４．訪れた人々の新たな交流
戦略　５．ビジネスの場づくりと支援
戦略　６．空き家・空き店舗・空き地の有効活用
戦略　７．訪れる人々が利用しやすい交通環境
戦略　８．訪れる人々をもてなすやさしい情報提供
戦略　９．パブリックマインドを有した人材の育成
戦略１０．持続的なまちづくり活動

※Park(ing)Day2020竹原プロジェクト・レポートより抜粋

3．今後の予定

令和5年度の取組

■本町7丁目広場の活用

- 本町通り商店街の広場を活用し，市民や来訪者が集い憩える滞在空間を創出し、遊歩道整備とあわせ回遊性の向上を目指す
- 幅広い市民が関係するスキームを構築し、将来的な空間再編に向けた交通量調査も実施

令和6年度の取組

■歩道部の活用

- 空き店舗や空き地、軒先にベンチやテーブル等の滞留施設を設置、面的に公共空間の活用を図る実証実験を行う
- 現況の歩道幅員が狭く、活用幅が限られるため、沿道店舗の空間活用もあわせて実施

【事例】（社会実験）
・連尺通り
（愛知県岡崎市）
【概要】
・軒先と空き地を活用し暮らしの質向上を図るための実験

※出典：国交省ウォーカブルポータルサイトの事例より

■社会実験と勉強会の関係性

年月	内容
令和6年4月	先進事例の共有
5月	生活社会実験の検討
6月	生活社会実験（予定）
7月	生活社会実験（予定）
8月	生活社会実験の検証
9月	生活社会実験の検討
10月	生活社会実験（予定）
11月	生活社会実験（予定）
12月	生活社会実験の検証
令和7年1月	ウォーカブルビジョン策定
2月	ウォーカブルビジョン策定
3月	ウォーカブルビジョン策定

第1回本町通り商店街エリア
ウォーカブル勉強会

市街地中心部の取組状況

令和6年4月22日

関市都市計画課

目次

（１）空き店舗を活用したマルシェ等の取組

（２）滞留空間（本町ネクスト）の取組

（３）その他

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

セキ日和実行委員会の活動

目的

- **景観保全**

  関の中心市街地に残るレトロな町並みを守る

- **まちの活性化**

  残された面的な景観は潜在的価値を秘めている。

  価値ある財産を生かしたまちの活性化を図る。

取組

①ワークショップの開催

・町並みの魅力や価値に気付いてもらうきっかけづくりを行う

②遊休不動産を活用したマルシェの開催

・空き店舗等の所有者と、関での出店希望者とのマッチングを図る

・所有者と出店者のマインド変化を図る

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

【開催概要】

■日時

- 第1回　令和5年3月18日（土）10時～15時30分
- 第2回　令和5年5月13日（土）10時～15時30分
- 第3回　令和5年9月30日（土）10時～15時30分

■場所

- 古民家あいせき

■参加者

- 合計69名（10代～60代）

【内容】

- まち歩きを通して関を知り、残したい景色に出会うワークショップ
- ルート上を歩きながら、綺麗な景色や気になる物を写真に収める
- チーム内で写真の共有
- チームごとに発表、全体共有

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

日常がもっと楽しくなる！まち歩きの楽しみ方

- まち歩きを楽しむ最初のステップ

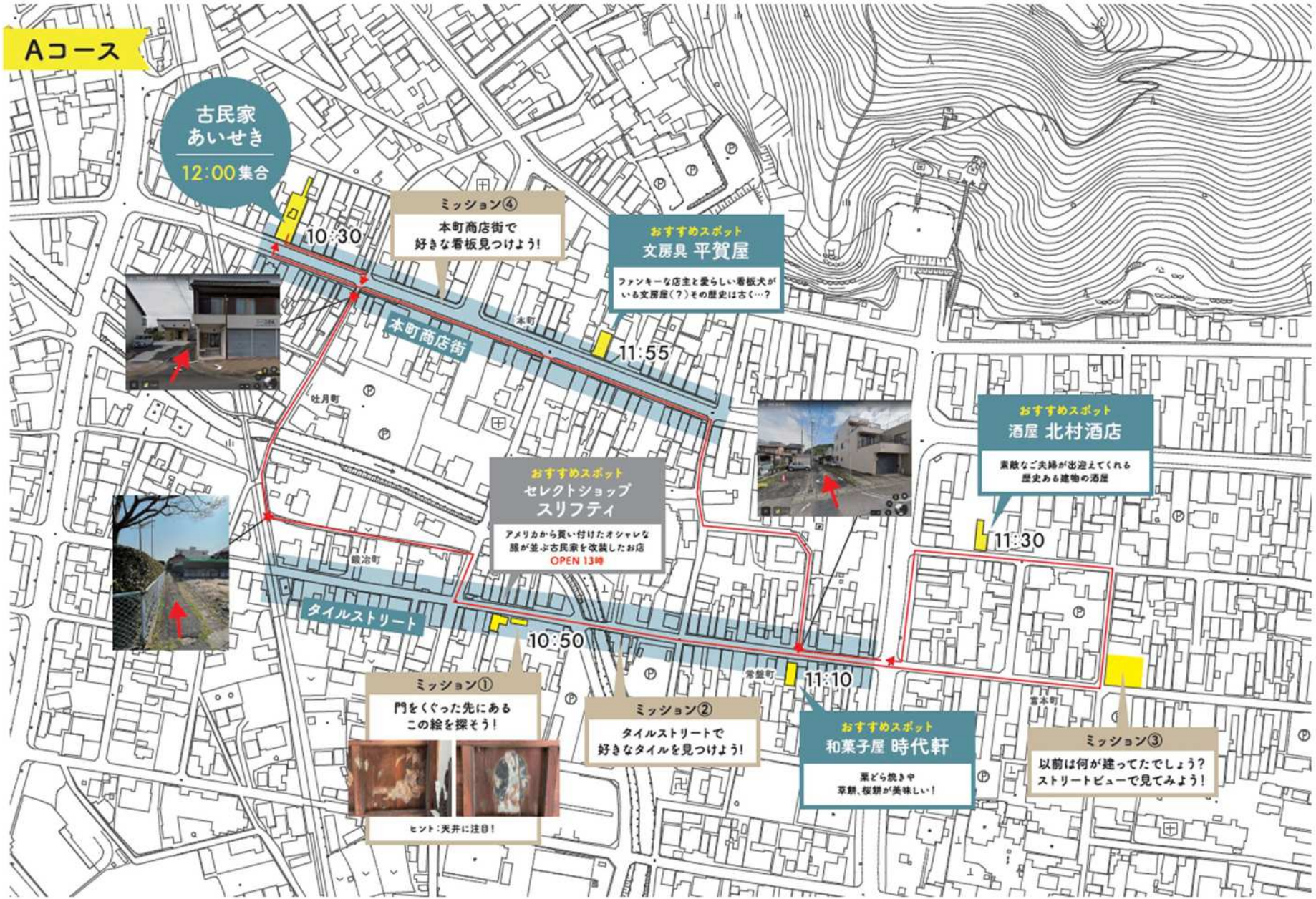
「町の過去、日常、未来を妄想すること、
町に疑問をもつこと」

【まち歩きの視点】

① 今ある景色からかつての姿を想像する
② 道ごとの雰囲気の変化を感じ取る
③ 町が守ってきたものを見つける
④ 町に暮らすことを妄想する
⑤ 町のシンボルを見つける
⑥ 建物を観察する
⑦ 町に「ツッコミ」を入れる

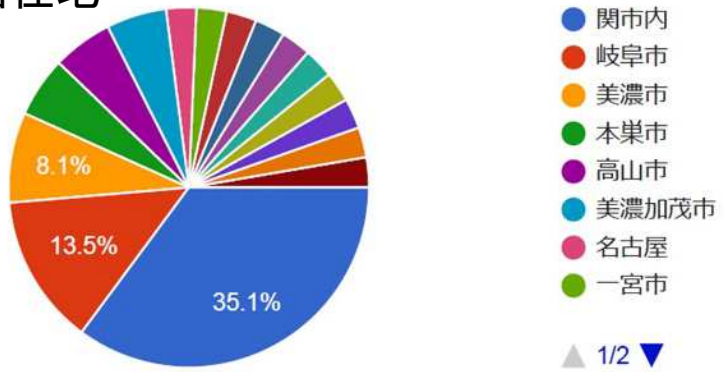
1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

■散策マップ



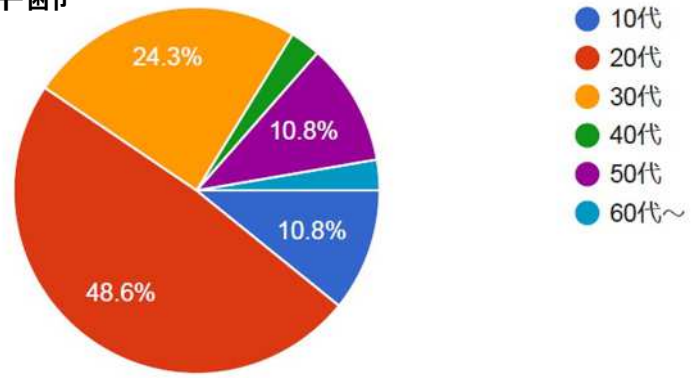
1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

■居住地

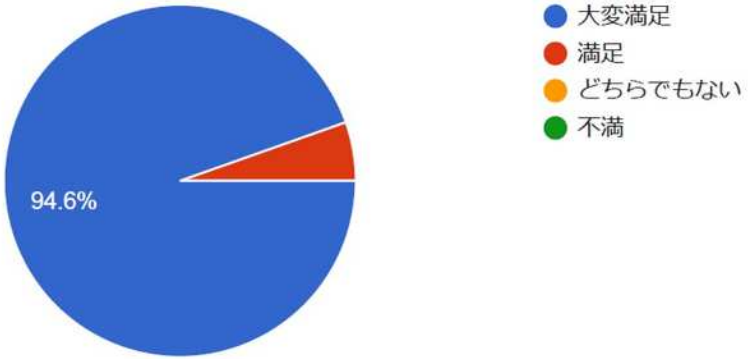


■年齢

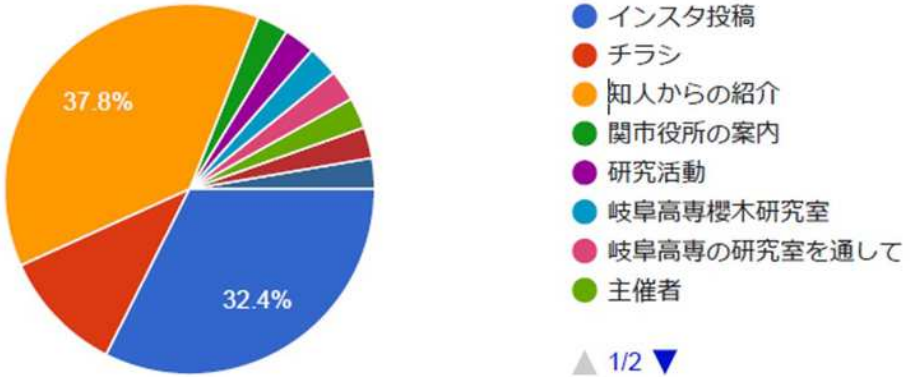
（回答数：37）
※第1回、第2回回答を集計



■イベントの満足度



■イベント情報の入手



ワークショップの感想

- 人によって視点が違い、捉え方によって町の魅力は倍増すると感じられたことです。
- 20年以上関市に住んでいますが、知らない場所道が沢山あることを実感しました。こんな良い所があるんだと発見の機会になってとても良かったです。
- 細かく見ていくと面白いスポットが多くて、他の場所も散策してみたいと思いました。
- 関にはなにもないと思ったこともありますが、少し歩くだけでこんなに面白いのかと思いました。
- シャッター街となっている商店街もじっくり観察すれば今のままでも魅力たっぷり。景色を変えて欲しくないなとまで思った。

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

【開催概要】

■日時

- 令和6年3月2日（土）15時～17時30分

■場所

- 古民家あいせき、本町通り、安桜山、善光寺周辺

■参加者

- 7名（10代～60代）

【内容】

- セキ日和実行委員会のメンバーがガイドとなり、古写真と現在の風景を見比べながら、昭和の面影が残る関の町の案内を実施
- ルートは、古民家あいせきを出発、本町通り、安桜山の山頂、善光寺周辺を散策するルートとして、約2時間30分のコースを設定

ワークショップの感想

- 関の歴史を知れたことで、地元への興味関心も増した。
- 関の意外な一面をたくさん知れてとても面白かった。
- 今と昔の違いを当時の写真、実際のいまの姿を見比べて学べて楽しかった。
- 昔の写真や歴史を説明してくれることで、街の風景が一段と深みを増す感じがした。昔はこうだったのかと今の風景と写真を重ね合わせて想像することで、街歩きがより楽しくなった。

１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

【開催概要】

■日時

- 令和5年6月3日（土）、4日（日）の2日間
  10時～16時

■場所

- 本町3丁目から本町8丁目
- 古民家あいせき（本部）

■来場者

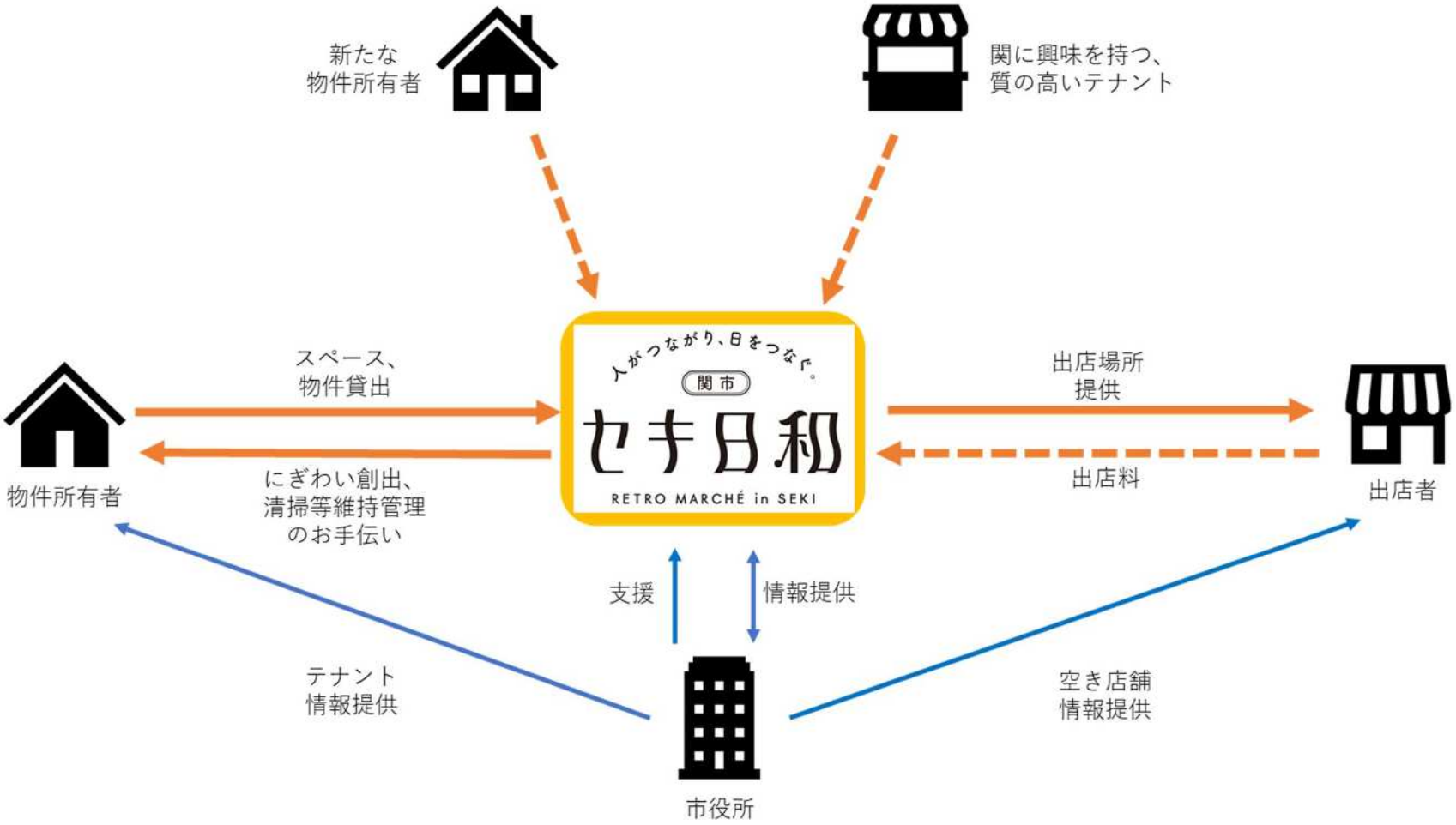
- 約3,000人（2日間の合計）

【内容】

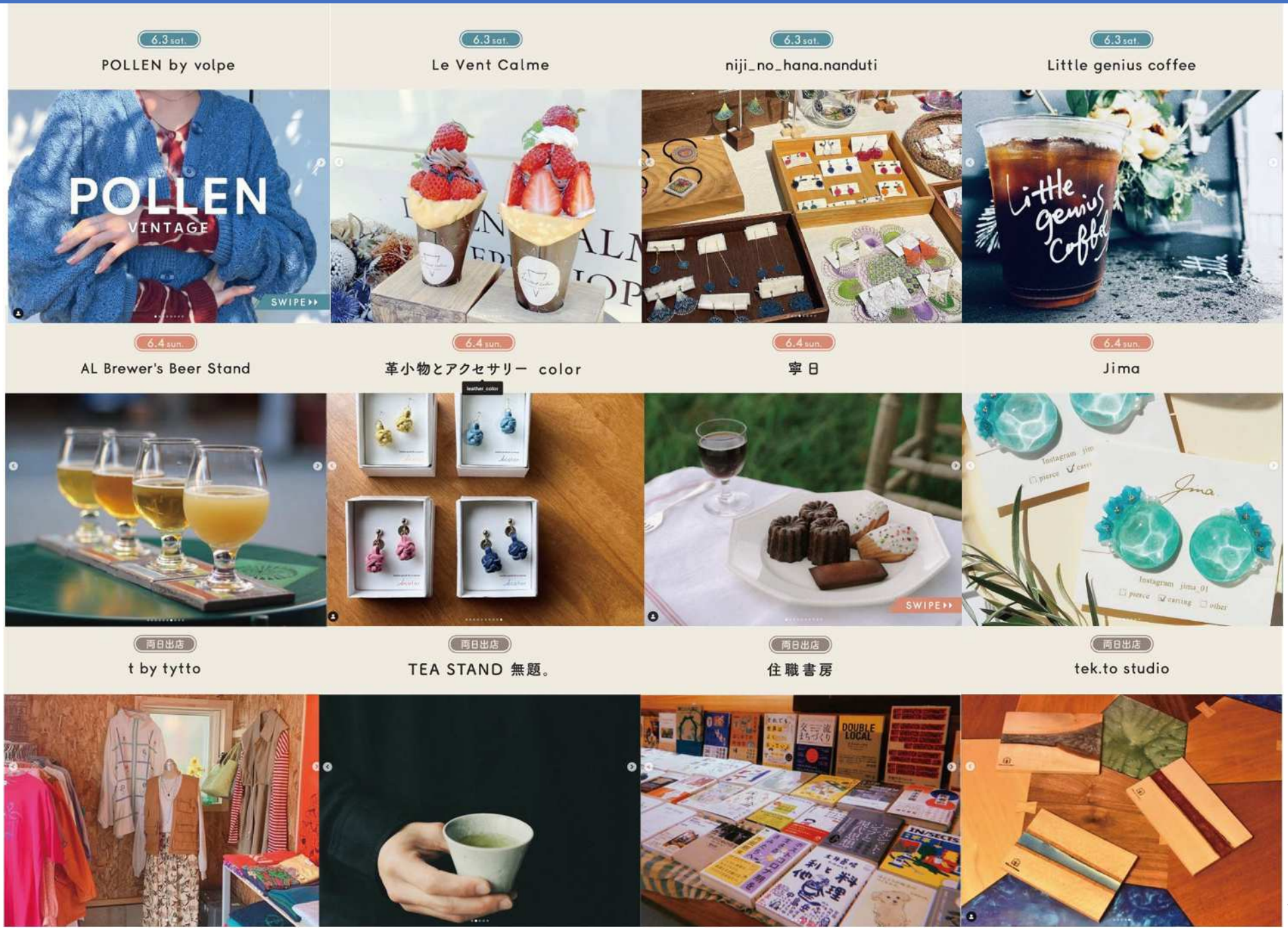
- 実際の空き店舗や空き家に出店し、2日間だけかつてのようなお店が立ち並び人々が行きかう本町通り商店街を作り出す
- 出店者
  「関でお店を持つ」希望を持ちやすくする
- 物件所有者
  「人にスペース・家を貸す」イメージが湧きやすくする
- 今回のイベントでは、18箇所の空き店舗、空きスペースを使用、2日間で50店舗が出店

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

■セキ日和のスキーム

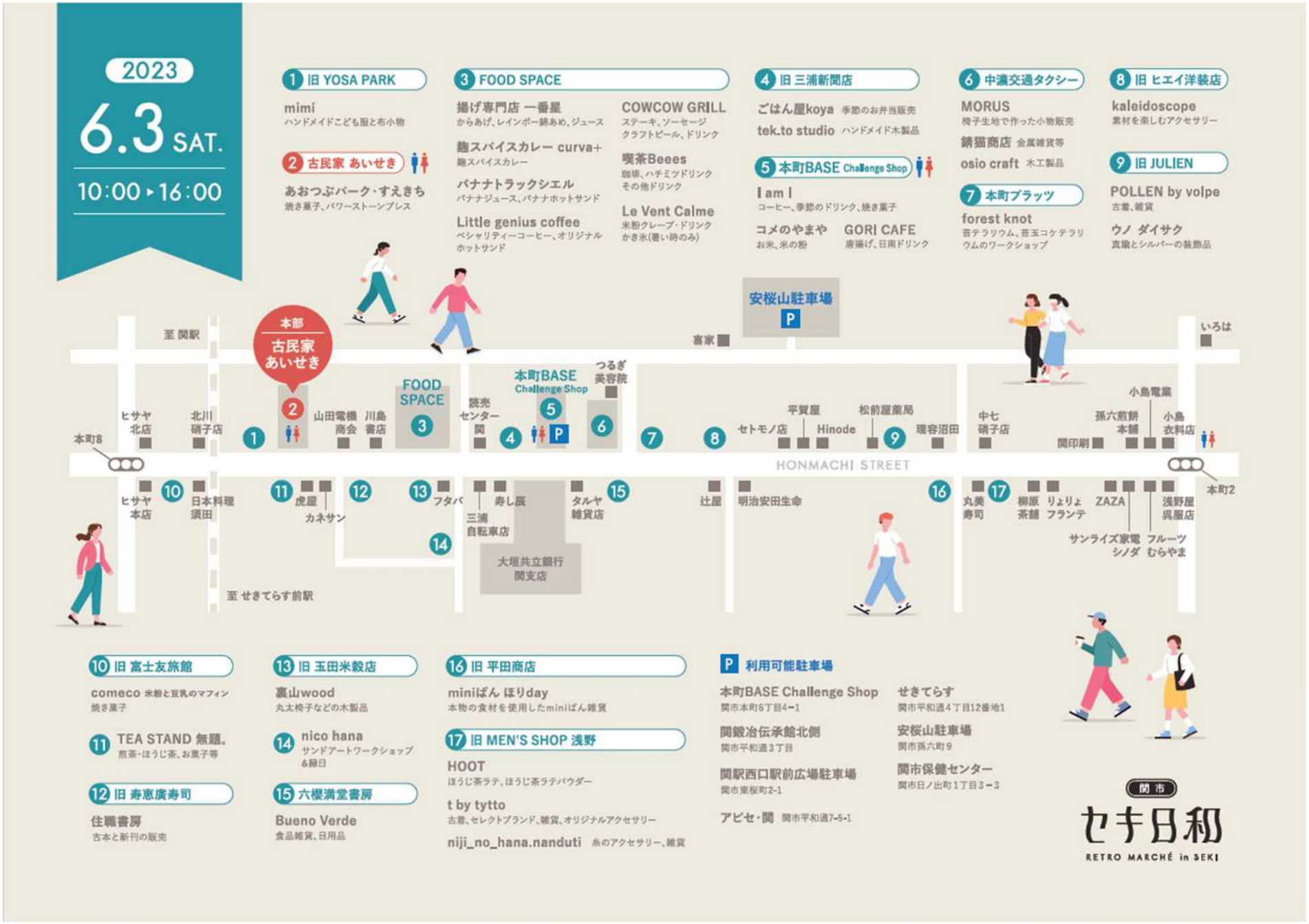


1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組



1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組



１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

日常の風景

セキ日和の風景

１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

日常の風景

セキ日和の風景

１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

日常の風景

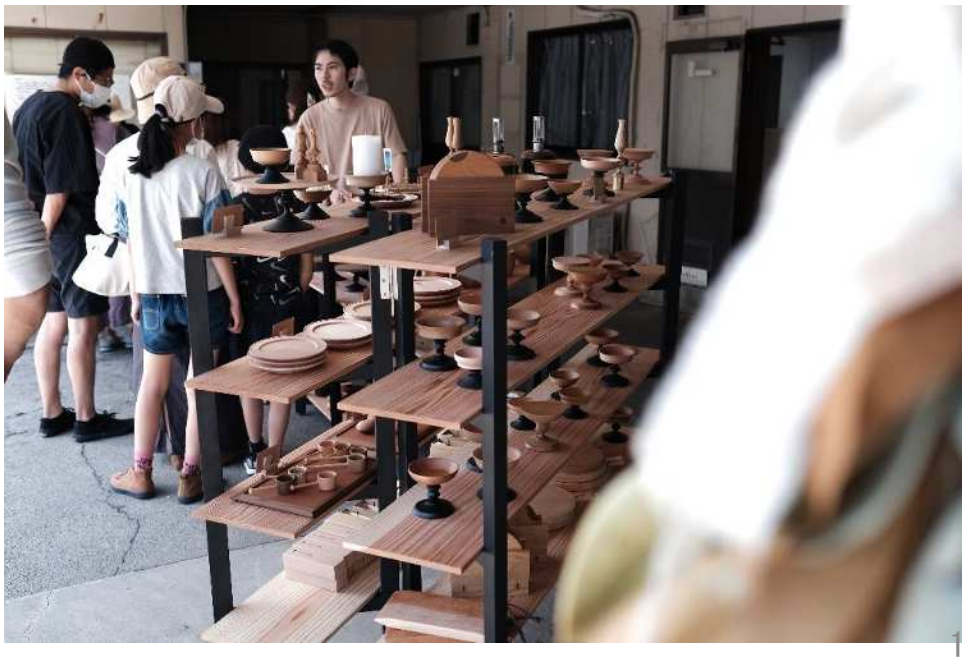
セキ日和の風景

１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

日常の風景

セキ日和の風景

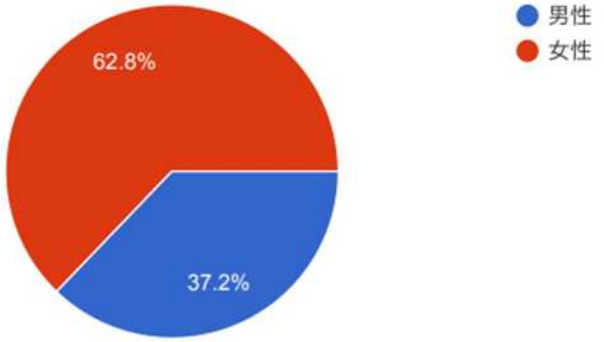
１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組



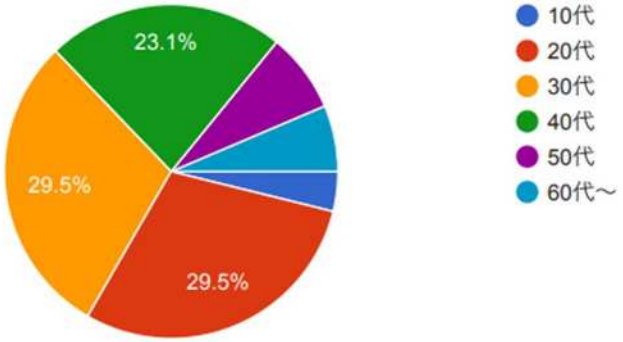
1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

（回答数：78）

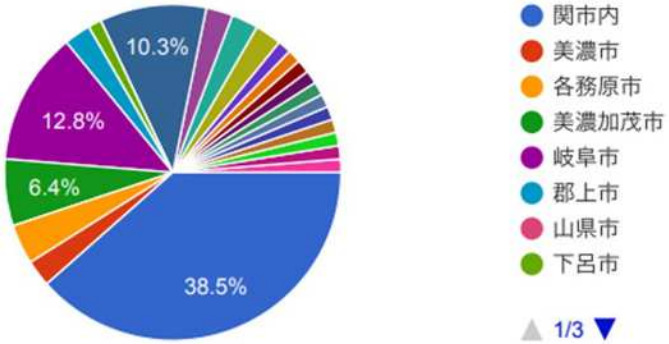
■自認する性



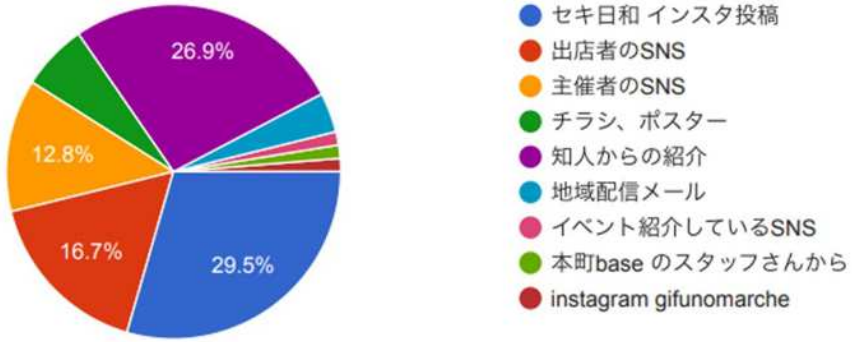
■年齢



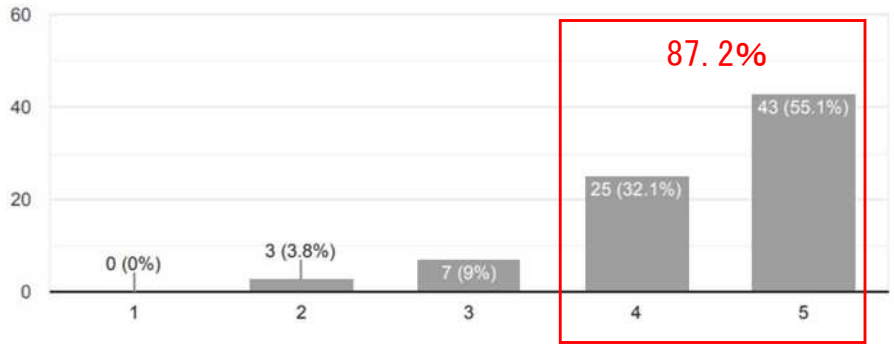
■居住地



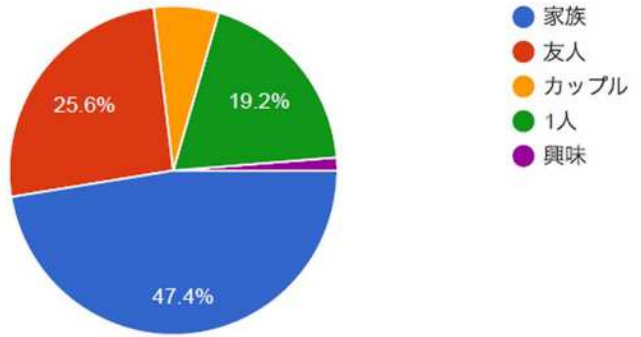
■イベント情報の入手



■イベントの満足度



■来場者の構成



1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

イベントの感想	改善点
• 本町は車の通りが多いだけだと思っていましたが、こんなところも使えるんだという新しい発見がありました。 • 普段空いていないお店が開かれているのが新鮮だった！ • 本町通りがオシャレな雰囲気になってよかった。このような形で空き店舗が生かされると楽しい。 • 今は開かないシャッターを開けるとこんなに素敵なところなんだ！となりました。とっても好きな雰囲気でした • 本町の古民家や使われていない店舗を利用するというアイデアがとても良いと思います。駐車場もあるし、アーケードなので日陰もあり、マーケットにはいい環境なのでは。 • せき日和は店の中に入らせるという特性ゆえ、既存店舗にも入店しているお客さんが多いように見受けられた。またこのマルシェが入店しづらい店に入るきっかけになっていると思った。 • 楽しかったの一言。なぜ楽しかったのか‥人々が笑い、会話し、繋がってるな〜と感じたから。今まで閉まってたシャッターが開き、趣のある店内が見れたから。美味しいものをいっぱい食べる事が出来たから。珍しいもののお話が聞けたから。あいせきで賑やかな通りの音を聞きながらのんびり出来たから。 • 想像以上にお客さんがたくさんいて、驚いた。賑わっている本町通りを歩くのは楽しかった。	（出店に関すること） • 出店数を増やして欲しいです。 • どこにお店があるのか、道を歩いていて少し分かりにくかった。 • 各所に拡大地図、現在地の確認場所があれば個人的には回りやすいかなと思いました。 • ミノマチヤマーケットのように統一の目印看板があるとわかりやすいかと思います。既存の店舗を今後もっと巻き込んで盛り上がると嬉しいです。 • フードスペースにもう少し椅子があるといいと思いました。 • 座って食べれる場所がもっとあれば良かった。 （駐車場に関すること） • 駐車場が外部からくると少しわかりづらい。 （本町通りに関すること） • 車の通りが多かった。 • 車通りが多く危なさを感じました。 • あの通りの交通量を何か集客に活かせないか、考えさせられました。 • 道路が混み合っていたので、歩行者天国でもよかったのでは。 （その他） • 電車・バスの場合のアクセスについても記載があると嬉しかったです。 • 関市内の他スポットを紹介しても良いのかなと思いました。

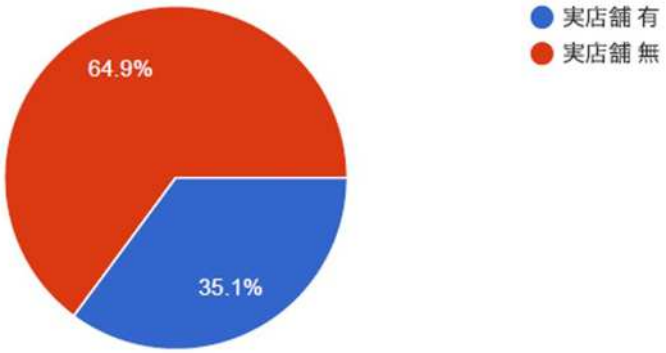
1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

イベントを通した関市への新しい気づき	市内にどんな場所や機能があれば訪れたいか
• 空き店舗を開けて協力してくださる方々がいる事が良かった。 • 本町6、7丁目住民の本町への関心の高さ。（花壇や外に出てマルシェの様子を見学するなど） • 商店街という素晴らしい資源がある。 • 通りにレトロ感のある建物や看板などが多くいいなと思いました。 • 今回、普段使われていない場所（お店）に入ることができ、雰囲気が良いところばかりで、シャーター街と勝手に思っていたが、見えないところに素敵な場所がたくさんあることに気付いた。 • 本町の昔からの雰囲気を残しつつリノベーションがされたらもっと魅力的な街になりそう 。人が来たいと思う場所にできたら活気も出てくると思います。 • 若者がまちづくりを頑張っていて凄い！	• 子供が遊べる場所 • 安心して歩ける空間、休憩場所 • フリースペースでの定期的なイベント開催があると歩くのが楽しみになる • 本町ベースのようにいろいろできる場所 • 気楽に車を止められるスペースがあれば、本町がもっと身近になる • 美味しい食べ物とともに、人と交流、雑談、体験が出来きる場所 • ゲストハウス • 人と人とが交流できるコーヒースタンド • 子どもや若者が高齢者と交流できるイベント • 子どもを一時的に預かってくれる施設があり、親世代が自由に時間をもって交流できる場 • 小道や子供目線の遊びが散りばめられた散歩道。その散歩道にお店、交流できる広場がある

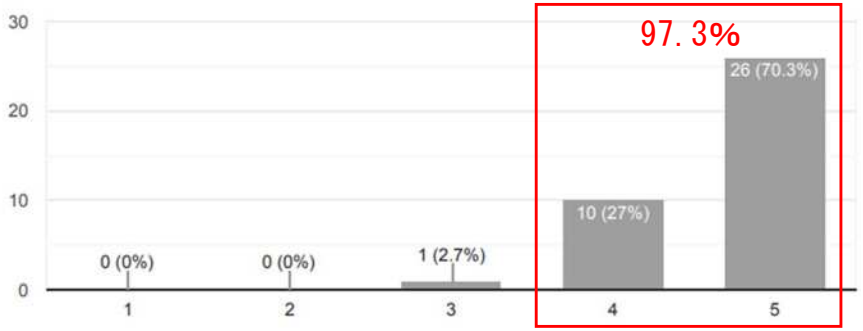
1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

（回答数：37）

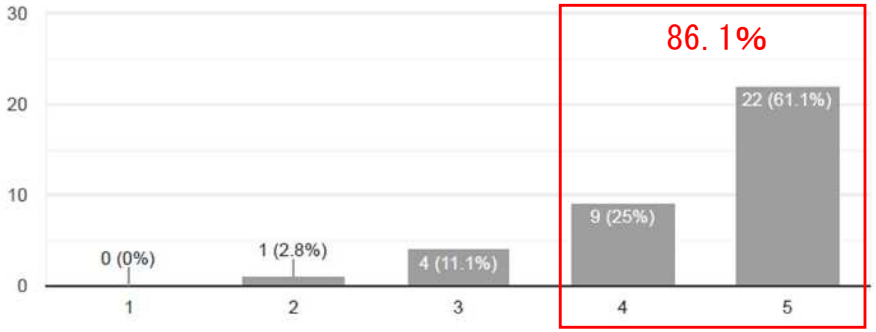
■実店舗の有無



■イベントの満足度

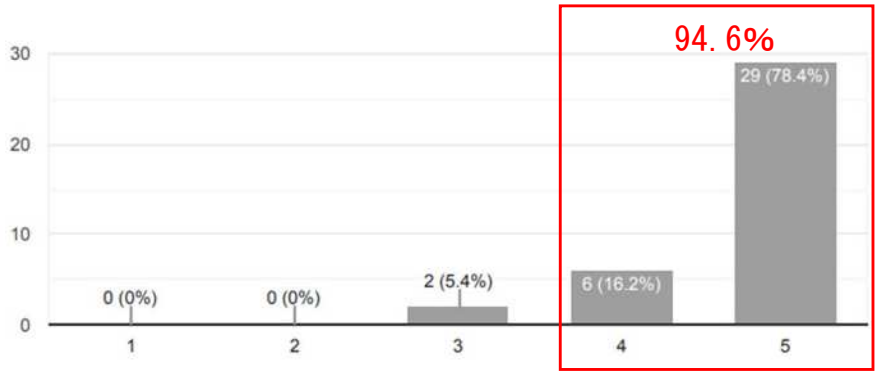


■出店ブースの満足度



■関市での新規出店の可能性

■次回の出店希望



1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

【開催概要】

■日時

- 令和5年11月18日（土）※荒天により午後中止
  10時～16時

■場所

- ひねもすぽっと、関川沿い市道、駐車場

■来場者

- 約1,000人

【内容】

- 遊歩道整備の対象エリアとなっている関川沿いの空きスペース、空き家等をマルシェ会場の候補地とし、野点傘（パラソル&テーブル・椅子）など滞留施設を配置
- 各エリアにキッチンカーと物販店舗を混在させ、各エリアを回遊できるようにまち歩きのマップを作成
- 関川沿い市道は全面通行止めとして実施
- 市道、駐車場に約60店舗が出店

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

まちを歩くマルシェ

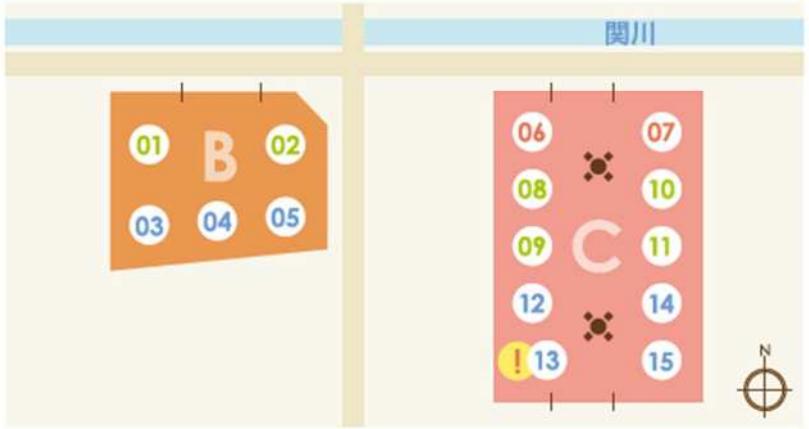
歩く、せき市 map

2023.11.18 sat. 10:00▸16:00

In Seki City, Gifu Prefecture

エリア拡大MAP

00 飲食（フードトラック） 00 飲食 00 物販 ! インフォメーション パラソル



B 橋前エリア

01 notcurry［スープカレー］
02 PEK COFFEE［珈琲・炭酸ドリンク等］
03 amaoto［白樺細工］
04 La recolte［子供服と大人服］
05 kaleidoscope［素材を楽しむアクセサリー］

C 門前エリア

06 gruppo［クレープ］
07 coffee arichika［ホットドッグ・珈琲・甘いドリンク等］
08 やっさん家のチーズケーキ［チーズケーキ］
09 Kuchen Platz［キッシュ・焼き菓子］
10 ティダティダ［焼きたてちんびん・チャイ］
11 パン工房 Ohisama［手作りパン］
12 ito to［ハンドメイド大人・子供服・小物等］
13 旅する図工室［カプセルトイ］
14 felice［韓国子供服］
15 hayg［雑貨・イラスト等］

-1-

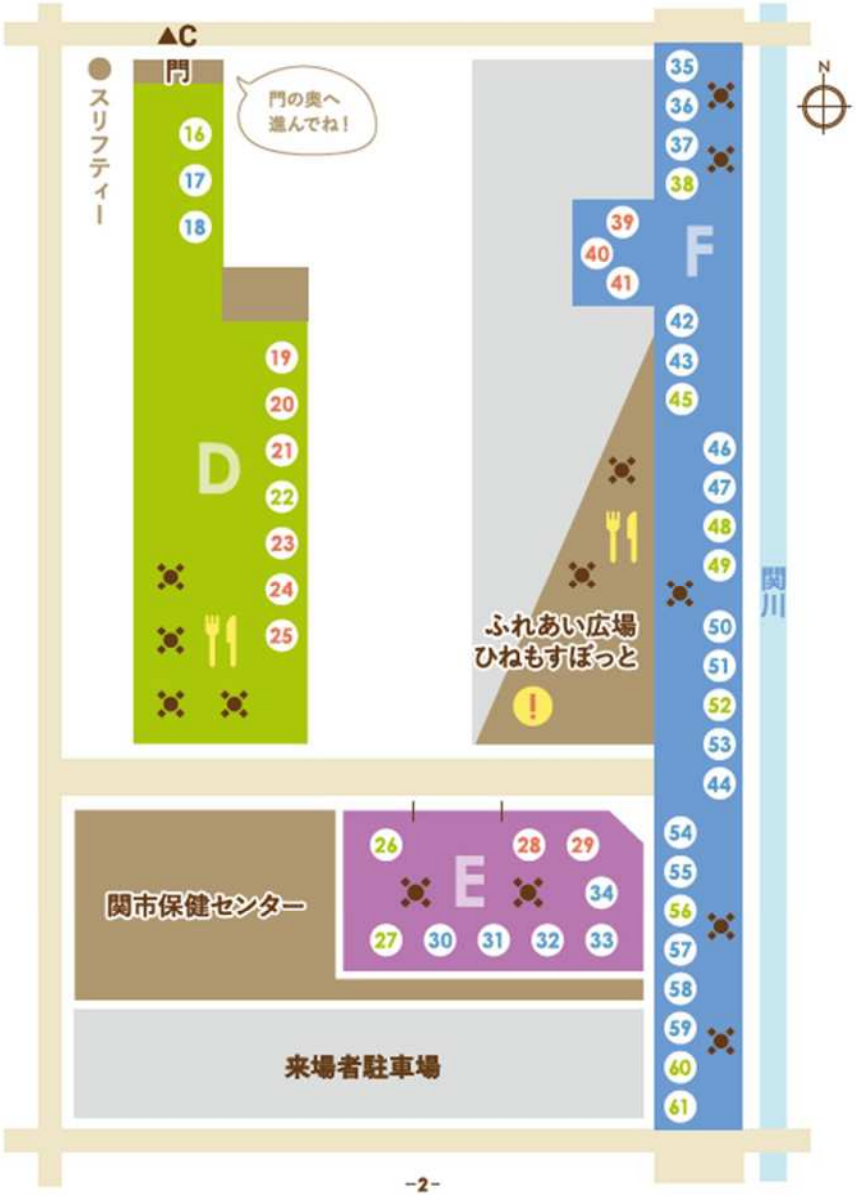
セキ日和

主催／セキ日和実行委員会（事務局 都市計画課）
連絡先／関市都市計画課 0575-23-6734（直通）

※「セキ日和」とは、関市役所都市計画課との協働により、関市の中心市街地の活性化を目的としたワークショップ、マルシェを開催する団体です。

Instagram

1．空き店舗を活用したマルシェ等の取組



D 門奥お食事エリア

16 TEA STAND 無題。［日本茶］
17 loose［ドライフラワー］
18 しだ［古着・ハンカチ・靴下・アクセサリー等］
19 薪窯料理ひげどんぐり［石窯ピザ・ドリンク等］
20 THALEIA SHOP［スパイスカレー・ドリンク］
21 huu［コーヒー・和菓子］
22 _days.cafe［スープ・ドリンク等］
23 Little genius coffee［珈琲・サンド・ソーダドリンク］
24 揚げ専門店 一番星［からあげ・チュロス・ドリンク］
25 天ぷら屋やまとや［天ぷら・天丼］

E 保健センター駐車場エリア

26 喫茶つみき［ポン菓子実演・わたがし販売］
27 kou pastry shop［焼き菓子・バターサンド］
28 ベビーダ・タジミ［カレーライス］
29 86coffee［ハンドドリップコーヒー・その他ドリンク］
30 革小物とアクセサリー color［革小物・革アクセサリー］
31 あみはなや［ドライフラワー］
32 Pisica［アパレル小物］
33 飛騨無垢屋［木製品販売・刻印ワークショップ］
34 asmade［ハンドメイド子供服・編み小物］

F 関川沿いくつろぎエリア

35 HASHIBAMI［天然石アクセサリー］
36 riCamo.［刺繍アクセサリー］
37 Bioteinos［マヤ暦診断・香りづくり］
38 nohaco（おつまみ専門店 平光商店）［おつまみ］
39 さっちゃんカレー［カレー・自家製ドリンク］
40 とよさんのべびーかすてら［米粉と豆乳のべびーかすてら］
41 guqulu.［パンケーキサンド・ドリンク・その他軽食］
42 lien［ハンドメイドベビー小物・布小物］
43 CUTE+s［ハンドメイド布小物］
44 Coto［ハンドメイドアクセサリー］
45 cafeFROG［里芋の唐揚げ・果肉入り桃ティー］
46 miniばん🌮ほりday［miniばん雑貨］
47 tekolin［雑貨・ハンドメイドの布小物や大人服］
48 カレー喫茶 イシダ［オリジナルスリランカカレー］
49 ULU［珈琲・チュロス］
50 mimi［ハンドメイド子供服・布小物］
51 イラストレーターきびだんご［ワンコイン似顔絵］
52 珈琲と紅茶と○○のお店 コこ弧［珈琲・紅茶・その他ドリンク］
53 Books Victor［古書・手作り木工・布小物］
54 megriko［古着］
55 オグリサカン分室［モザイクタイルアクセサリー］
56 Tamaya［焼菓子・マフィン］
57 Malak［ロゼット・ヘアピン］
58 ハレトケアロマ［アロマ・ワークショップ］
59 Happeace［トートバッグ］
60 Maru Sand［サンドウィッチ］
61 猫屋［ペイントアート雑貨］

-3-

１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

１．空き店舗を活用したマルシェ等の取組

2．滞留空間（本町ネクスト）の取組

関商工高等学校建設工学科が手掛けるまちなかスポット
「本町ネクスト」が誕生します！

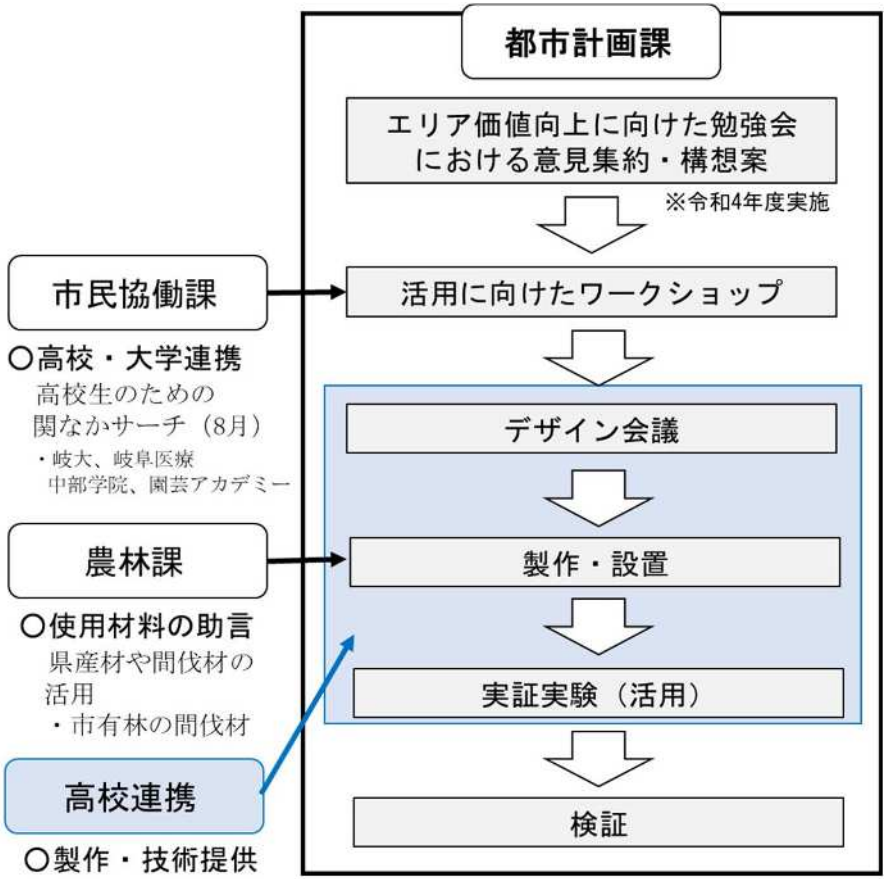
関商工高等学校建設工学科と都市計画課との連携で、市有林の間伐材を活用した滞留空間のデザイン検討、製作を進めています。
全国各地で広がっている、道路空間にテーブルや椅子、ベンチ等を置き、人々が過ごせる場所にする「パークレット」。将来的な空間整備を見据え、今回、広場の社会実験として本町7丁目広場に設置します。

【施設概要】
- 設置場所：本町7丁目広場
- 材　　質：木材（間伐材）
- 内　　容：休憩施設
- 利用開始：令和6年3月中旬（予定）

これまでの取組状況

1. ●木材やパークレットの取組についての授業を実施
2. ●まち歩きや地域の方へのヒアリングを実施
3. ●試作を繰り返しながらデザインを追求
   ●設計図に従って製作を開始

■実施スキーム



2．滞留空間（本町ネクスト）の取組

本町7丁目広場の対象エリア

滞留空間の設置（社会実験）

２．滞留空間（本町ネクスト）の取組

中日新聞（R6.4.12掲載）	岐阜新聞（R6.4.6掲載）

2024年（令和6年）4月12日（金曜日）

関商工高生ら連携「本町ネクスト」完成

街中ベンチ 憩いの場に

関市本町の本町7丁目広場に、市有林の間伐材などで作ったベンチなどを置いたスペース「本町ネクスト」がお目見えした。関商工高校（同市桐ケ丘）と市、企業が連携して取り組み、さっそく人々の憩いの場となっている。（金田侑香璃）

本町ネクストに設置されたベンチなどの製作に取り組んだ生徒と山下市長（左から3人目）＝関市本町で

まち歩きをする人に向け、道路空間を生かした滞留空間をつくろうと市が企画し、生徒たちと共に形にした。テーブルやベンチ、歩行者が休憩できる空間「パークレット」をベースに、デザインや制作をして、先月に完成した。

建設工学科の2023年度の2、3年生44人が取り組み、自身でまち歩きをしたり、地域住民の意見を聞いたりしながら全体像を作り上げ、木材の加工や組み立てもした。

完成した本町ネクストは高さと幅がそれぞれ約1・2メートル、奥行き約93センチのユニットを組み合わせてベンチを三つ作った。ベンチにはサイドテーブルもあり、木の香りに包まれながらゆったりとした時間を過ごせる空間に仕上げた。使用した木材は、市有林のスギの間伐材で600本を超える。

企画にはグラフィックデザイナーや建築家が参加したほか、コンクリートを川辺町のライン生コンが提供し、岐阜市のKトクラフトが施工。生徒たちは打設の体験もした。新3年の藤吉哉汰さん（17）は「ここは人通りの多い場所なので、子どもからお年寄りまで多くの人に立ち寄ってもらい交流してほしい」と願った。

山下清司関市長は「スギの香りがして、座り心地も良くて気持ちいい。この場所が本町を歩くきっかけになれば」と期待した。

市によると、ベンチは動かすことも可能で、今後周辺で開催されるイベントでの活用も視野に入れているという。

市有林間伐材活用「世代超え交流して」

第3種郵便物認可　岐阜

高校生作 憩いのベンチ

関商工生が市と協力、本町に設置

市有林の間伐材を活用したベンチなどの製作に携わった生徒や山下清司市長＝関市本町

関商工高校（関市桐ケ丘）建設工学科の生徒と同市が連携し、市有林の間伐材を活用したベンチなどを製作した。市中心部の同市本町の「本町7丁目広場」に設置され、地域住民や周辺を訪れた人に、木の香りが漂う中で休憩して交流を深めてもらう。（高橋友基）

間伐材活用「幅広い世代が交流して」

広場に接する本町通り一帯では、まち歩きをする人が増えており、滞在するきっかけにしてもらおうと、市が企画し、生徒とともに具体化した。

今回、米国サンフランシスコが発祥といわれ、道路の路肩駐車スペースにテーブルや椅子を設置する「パークレット」に着想を得た。市有林のスギの間伐材を製材した約600本を活用し、高さ約1・2メートル、座面の長さ約0・8メートル、幅約1・2メートルのユニットを組み合わせベンチを3台製作。植栽ユニットも作った。ベンチのあるスペースを「本町ネクスト」と名付けた。

製作は建設工学科の昨年度の2、3年生44人が昨秋から本格的に取り組み、地域住民の声を聞いてアイデアを練り、木材の加工や組み立てなどをして完成させた。

建築家やグラフィックデザイナーらが協力したほか、設置場所のコンクリートの施工では、ライン生コン（川辺町）が材料を提供し、Kトクラフト（岐阜市）の指導で生徒が体験した。

3年の藤吉哉汰さんは「小学生からお年寄りまでが利用して交流してほしい」と話した。山下清司市長は「スギの香りが広がり気持ちよく、座り心地も良い」と感想を語った。

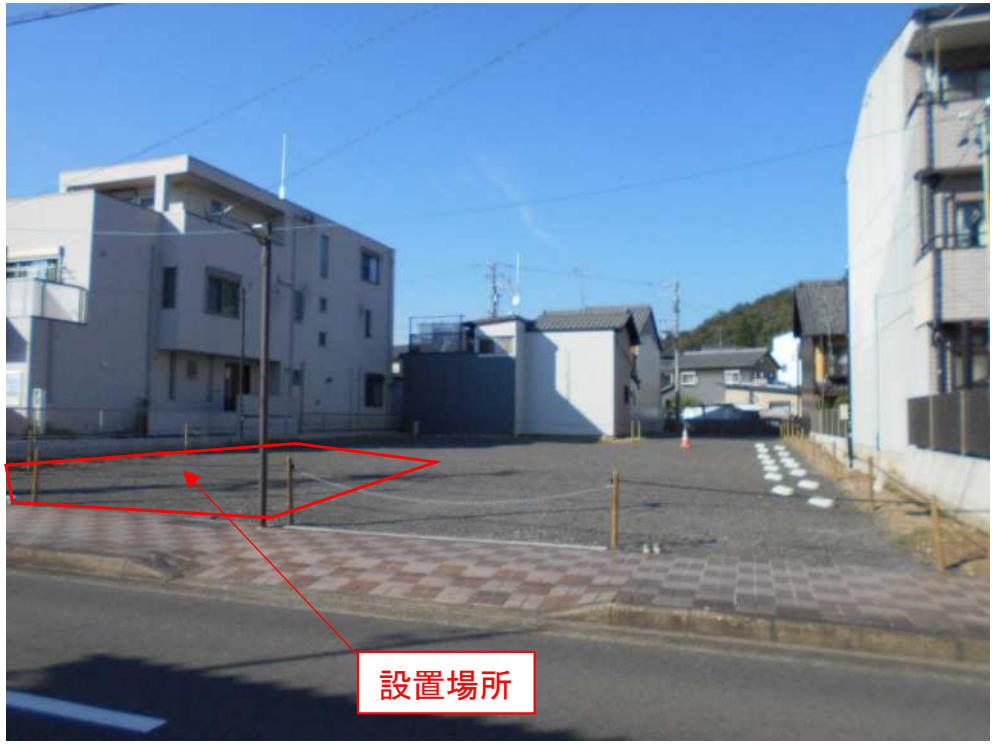
３．その他【広場の活用】

〇令和5年6月に実施したアンケート調査を踏まえ、「歩く、せき市」開催にあわせ、本町通りに「子どもが遊べる場所」を試行的に設置
〇公共施設や店舗利用に合わせた利用が51%で、利用者の半数以上が30分以上1時間未満の滞在
〇親子で楽しめる場所があることで、子育て世代が市街地中心部を訪れる目的となり，新たなライフスタイルの提供が十分可能

■概要
・場所：本町7丁目広場
・期間：令和5年11月18日（土）
　　～11月23日（木・祝）まで6日間
・時間：午前10時から午後4時まで
・人数：約200名
・内容：移動式遊具「モップス」を設置

（特徴）
・遊休スペースを活用してポップアップ的に公園を創り出し、まちに賑わい空間を創出
・子どもが遊びを発明する遊具
・遊びを誘発する仕掛け
・コンパクトに収納

収納時の様子

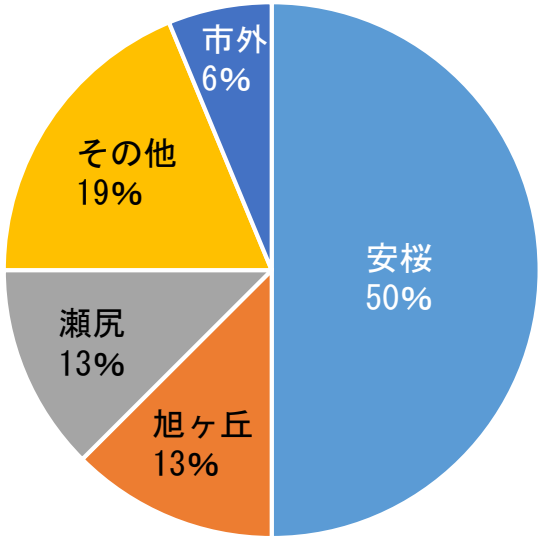


平時の本町7丁目広場

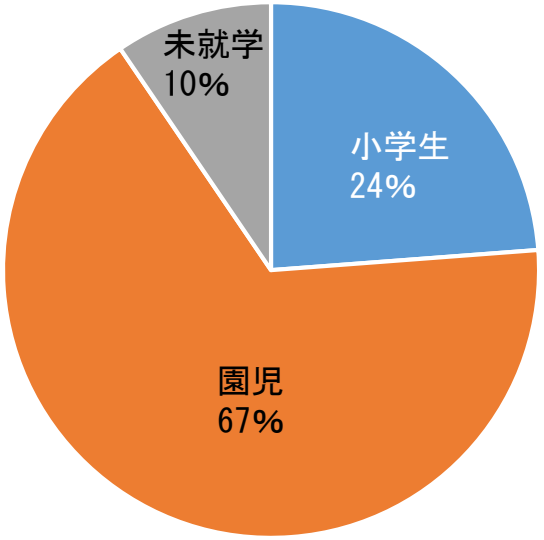
３．その他【広場の活用】

【回答数：16】

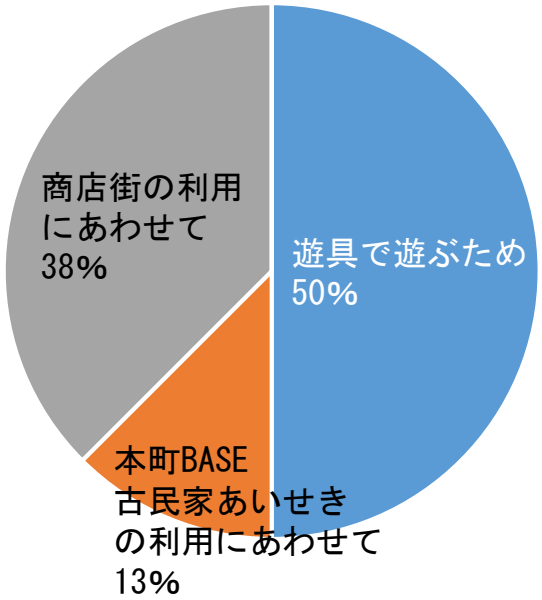
■居住エリア



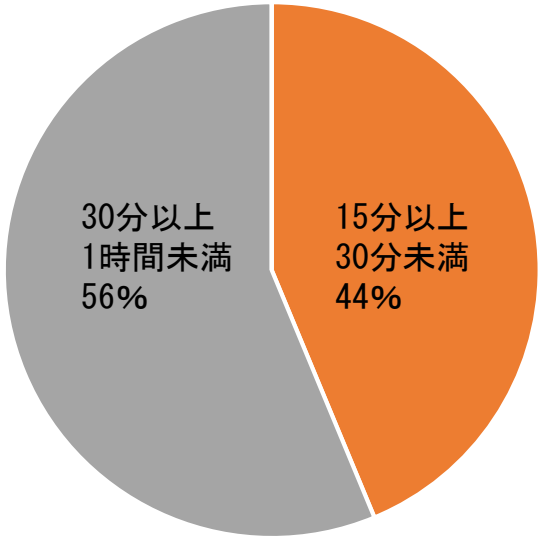
■子どもの年齢



■本町7丁目広場を訪れる目的



■滞在時間



３．その他【広場の活用】

良かった点	改善して欲しい点
• 子どもを連れて本町通りに来やすくなる • 週末に訪れる場所の一つの選択肢になり得る • 周囲に店舗があり人眼もあるため、安心して利用できる • 子どもが決まりを守って遊べるならば常設もいいのではないか • 本町通り周辺で遊ぶ場所を探していた • 移動式遊具を「ひねもすぽっと」や「せきてらす」にイベント設置するのもよいのでは • 人が寄れる場所があることはよいこと • 公園の常設遊具と異なる遊具があり、子どもが遊べるスペースが確保されることはいいこと • 設置期間に一度遊びに来ており、再度遊びに訪れた • 本町通りで大人が時間を過ごすには、子どもが遊べる場所が必要になるので、遊具が設置してあるこのような場所は非常にいいと思う • 子ども達が考え自由に組み立て遊べる遊具がいいと思う • 待ち時間などに近くに遊具があれば子どもたちが遊ぶ • 本町通り周辺に体を動かして遊べる場所がなく、学年を超えて遊べる環境がよい • 普段は家の中ばかりだが、遊具があることで外で遊ぶきっかけになる • 古民家あいせきで宿題をやって、その後、遊びにきている	• 複合的な施設の整備が必要 • 駐車場が少ない • 年齢差や体格差のある小学生と園児が一緒に遊ぶには危険と感じた、遊ぶエリアの区域分けが必要ではないか • 交通量が多いので、子どもが道路に飛び出さない工夫が必要 • 遊具の種類が少ない • ボール遊びができる要素が欲しい

３．その他【景観に関する調査】

○ 令和4年度から岐阜工業高等専門学校の櫻木准教授と、市街地中心部の景観形成に関する共同研究を実施
○ 行政、住民、学校がそれぞれの立場から協働するものであり、その成果は広く住民が享受できるものとする

令和4年度の研究概要

- 市街地中心部における残したい景観、関市を代表する景観等について調査
- 景観形成に向けた基礎的資料の作成

【取組1】現地調査の実施

- 市街地の景観を構成する「音」「におい」「人間行動」等について、平時と祭事で調査を2回実施

【取組2】景観まちあるきワークショップ

- 市街地中心部を歩いて、残したい景観、代表的な景観を見つける現地調査やWSを開催

現地調査の様子

まちあるきWSの様子

令和5年度の研究概要

- 令和4年度の研究成果を踏まえ、市街地中心部の町並み形成の歴史的背景の整理
- 主要となる景観要素の抽出に向けた調査
- 関市文化財保護センターとの連携

- 関＝刃物の街が、景観としてどのように結びつくかという観点から以下の取り組みを進めている

【取組1】

- 景観の印象に関わる観念や心的要因を明確にするため、地域的なイメージを伝統的な金属産業の町において調査を実施し、期待される音と景観の印象について比較検討

【取組2】

- 金属産業の街や、伝建地区等で、イメージマップを描き、どのようなものを知覚して歩いているのかを把握

３．その他【関鍛冶伝承館の企画展】

- 関鍛冶の古文書や刀剣を有する「関鍛冶伝承館」、周辺の文化財や遺跡の調査を行ってきた「文化財保護センター」、地域資源を生かした関の景観まちづくりを実施してきた「都市計画課」の各部署による、関のまちについての調査結果を展示紹介するもの
- 関のまちについて「近現代」、「近世」、「中世」と順に時代をさかのぼる３年連続のシリーズとして企画し、初年度では明治時代～現代までの「近現代」をテーマとする

- **企画展名称**
  刃物のまち関と鍛冶の700年
  ～明治から現代まで～
- **期間**
  令和５年１１月１８日（土）
  ～令和６年１月２８日（日）
- **会場**
  関鍛冶伝承館　2階 第１展示室
  サテライト会場　古民家「あいせき」
- **主催**
  観光課・文化財保護センター・都市計画課

昭和34年市街地地図（復元）

「関市全居住者明細地図帳」（東海地図社刊）をもとに、市街地の地図を復元しました。
戦後、ポケットナイフの海外輸出などで繁栄した関の町。工程ごとに分業制で仕上げる刃物製造は、工場や内職でまちなかに根づきます。
個人住宅や商店奥の自宅でも刃物産業にかかわる住民は多く、町は生活の場としても発展していきます。
地図帳の表記をもとに営業種別で色分けすると、東西約1.5kmの通りに販売店（うすい橙色）が軒を連ねている様子が分かります。
日用品から電化製品、贈答品までさまざまな商店が並び、「関の町に行けばなんでもそろう」と言われた街のにぎわいが伝わります。

昭和30年代の市街地を眺めてみよう

【航空写真 昭和36年】

昭和30年代 本町8丁目

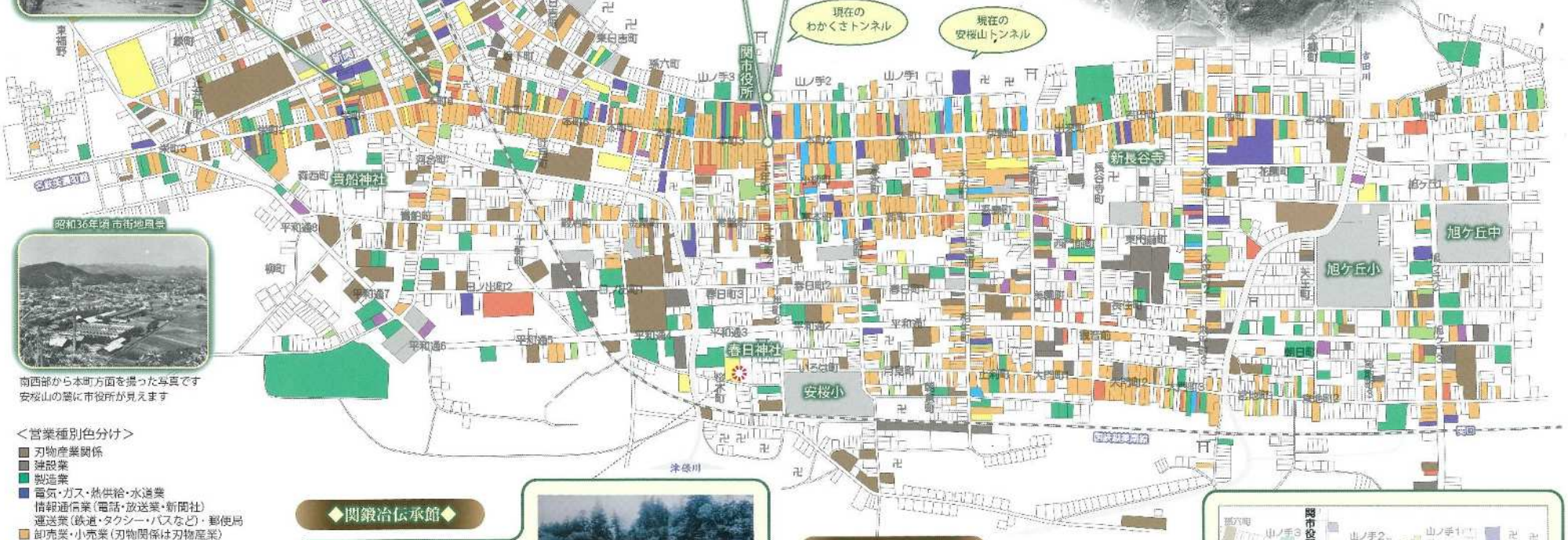
昭和36年頃 新関駅前

昭和41年本町2丁目交差点

昭和34年完成 関市役所庁舎

昭和36年頃 市街地風景

南西部から本町方面を撮った写真です
安桜山の麓に市役所が見えます



＜営業種別色分け＞

- 刃物産業関係
- 建設業
- 製造業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
  情報通信業（電話・放送業・新聞社）
  運送業（鉄道・タクシー・バスなど）・郵便局
- 卸売業・小売業（刃物関係は刃物産業）
- 金融業・保険業
- 不動産・物品賃貸業・法律事務所・設計事務所
  学術（塾・教室）・技術サービス（写真館・獣医）
- 宿泊業・飲食サービス業
- 生活関連サービス・娯楽
- 医療・福祉
- 公務・学校

※地図帳表記により分類しているため、個人事業主や内職など、色分けに反映されていない部分があります。

◆関鍛冶伝承館◆

日本刀鍛錬塾（昭和15年頃）

関鍛冶伝承館は、昭和59年開設の「関市産業振興センター」をリニューアルして、平成14年に展示館としてオープンしました。この場所は、戦前は町内有志により「日本刀鍛錬塾」が設置され、鍛錬技法を学ぶ塾生を育てた地です。
昭和34年当時は、関市養老院（のちの養護老人ホーム）が置かれていました。

◆関の町と銀行◆

昭和20年代、関の刃物産業の好況を受けて、東海銀行や大垣共立銀行が関町に進出しました。戦前からの地元銀行に加えて、これら銀行の出店は、関町の産業界をさらに活性化させるものでした。
上の市街地地図の範囲でも、本町2丁目を中心に、6店の銀行が集まっています。

第1回本町通り商店街エリア
ウォーカブル勉強会

今後の予定

令和6年4月22日

関市都市計画課

1．今後の予定

令和5年度の取組

■本町7丁目広場の活用

- 本町通り商店街の広場を活用し，市民や来訪者が集い憩える滞在空間を創出し、遊歩道整備とあわせ回遊性の向上を目指す
- 幅広い市民が関係するスキームを構築し、将来的な空間再編に向けた交通量調査も実施

令和6年度の取組

■歩道部の活用

- 空き店舗や空き地、軒先にベンチやテーブル等の滞留施設を設置、面的に公共空間の活用を図る実証実験を行う
- 現況の歩道幅員が狭く、活用幅が限られるため、沿道店舗の空間活用もあわせて実施

【事例】（社会実験）
・連尺通り
（愛知県岡崎市）
【概要】
・軒先と空き地を活用し暮らしの質向上を図るための実験

※出典：国交省ウォーカブルポータルサイトの事例より

■社会実験と勉強会の関係性

年月	内容
令和6年4月	先進事例の共有
5月	生活社会実験の検討
6月	生活社会実験（予定）
7月	生活社会実験（予定）
8月	生活社会実験の検証
9月	生活社会実験の検討
10月	生活社会実験（予定）
11月	生活社会実験（予定）
12月	生活社会実験の検証
令和7年1月	ウォーカブルビジョン策定
2月	ウォーカブルビジョン策定
3月	ウォーカブルビジョン策定

１．今後の予定

第２回ウォーカブル勉強会

- 日時：5月9日（木）午後7時から
- 場所：本町BASE

【内容】
①広島県竹原市の事例紹介
（講師：竹原市企画部企画政策課　伊藤様）
②生活社会実験に向けて

※内容が変更になる場合があります。
※オンライン併用で開催します。
※市HPおよび案内文書でお知らせします。